

カラスガレイ オホーツク公海

Greenland Halibut, *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

水産庁・独立行政法人水産総合研究センター

利用・用途

切り身や寿司ネタなどに利用される。

最近一年間の動き

2012年4～9月の漁期中に、2隻が本資源を対象とする底刺網操業を行った。2012年の本資源の漁獲量は、2011年の628トンとほぼ同量の603トンであった。

漁業の特徴

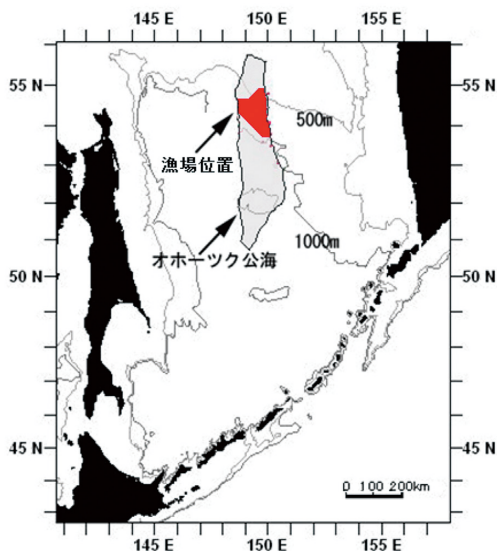
1980年代半ばに、北海道は本資源を対象に底刺網の試験操業を開始した。漁場はロシア水域に囲まれ、資源は周辺の大陸棚資源と連続すると考えられる。1992年以降、ロシア水域操業と並行してオホーツク公海操業が行われていたが、近年はロシア水域での操業は許可されていない。2000年度に北海道知事許可漁業から大臣承認漁業に移行し、さらに2007年度に特定大臣許可漁業となった。海水が発達する12～4月は休漁としている。

生物学的特性

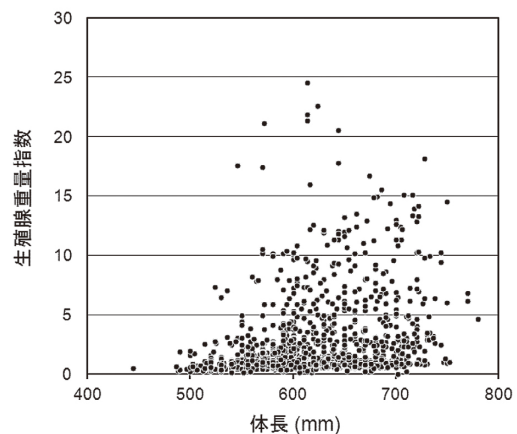
- 寿命：10歳以上
- 成熟開始年齢：5～7歳
- 産卵期・産卵場：秋～冬、オホーツク海
- 索餌場：オホーツク海
- 食性：スケトウダラなどの魚類及びイカ類
- 捕食者：シャチなど

漁業資源の動向

漁業開始時の漁獲量は4千トンを超え、CPUE（刺網1反当たり漁獲量）も高い値を示していたが、1990年代後半に低水準に落ち込んだ。1992年以降2000年まで、漁獲努力の一部がロシア水域に向けられていたことが、漁獲量の減少をもたらした一面はあるが、CPUEの経年的な変動は1990年代中頃の資源水準が低かった可能性を示している。2001年以降漁場はオホーツク公海のみとなり、近年のCPUEは漁業開始時に比較して、低位から中位水準で横ばい～ゆるやかな増加傾向にある。



オホーツク公海における近年の漁場位置



カラスガレイ (雌) の生殖腺重量指数

資源状態

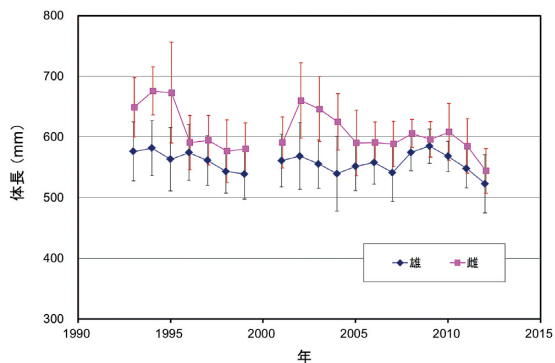
CPUE から判断する限り、漁業開始時の資源量水準の高位な時期から、1990 年代中頃に低水準となり、1990 年代後半から 2002 年までは中位から低位水準を経年的に変動していた。漁業形態が変化している中での CPUE 動態であり、漁業形態が安定した中での CPUE のモニタリングを継続して判断する必要があるが、近年の資源量水準は低位から中位を経年的に変動している。

管理方策

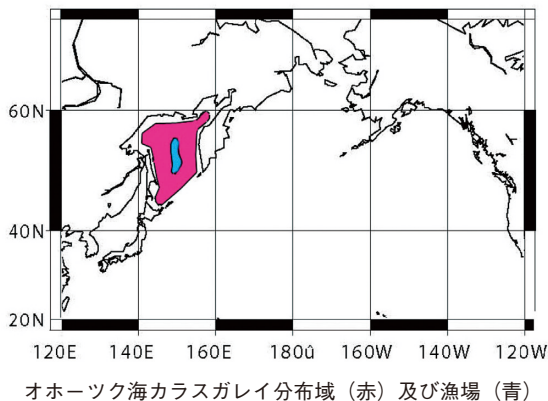
オホーツク公海漁場のカラスガレイ資源は隣接するロシア水域大陸棚資源と連続していることから、この公海域の漁業管理のみによる資源保全は現実的ではない。操業隻数が 2 隻に限られ、冬期間には結氷のため漁業ができないことにより、実質的に漁獲努力量が制限されている。また、網目 7 寸 5 分 (22.7 cm) として小型魚の漁獲を防止している。今後、極端に CPUE を低下させることのないような適正な漁獲努力量の配分を行うことで、資源を将来に渡り持続的に利用することが可能と思われる。なお、隣接するロシア水域大陸棚海域における 1991～2001 年の平均漁獲量は 4,300 トンで、近年のロシア北オホーツク小海区におけるカラスガレイ TAC はおよそ 5,000～6,500 トンとされている。

資源評価まとめ

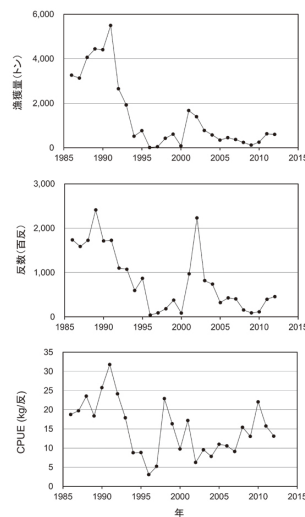
■近年のカラスガレイの資源水準は低位から中位を経年的に変動しており、資源動向は横ばい～ゆるやかに増加と判断される。資源を持続的に利用するため、現状程度の漁獲努力量を維持することが望ましい。



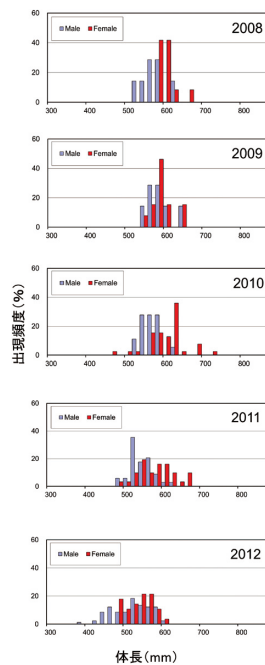
カラスガレイ漁獲物の体長 (平均値±標準偏差)



オホーツク海カラスガレイ分布域 (赤) 及び漁場 (青)



オホーツク公海におけるカラスガレイ漁獲量 (上図)、努力量 (中図) 及び CPUE (下図)



カラスガレイ漁獲物の体長組成

資源管理方策まとめ

■漁業情報収集体制の維持と漁獲標本分析によるモニタリング

カラスガレイ (オホーツク公海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位から中位を経年的に変動している
資源動向	横ばい～ゆるやかに増加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	オホーツク公海における他国の漁獲は確認されていない
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	119～628 トン 平均: 370 トン (2008～2012 年)